

むつみ

第50号 2004. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目 次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1	年男女	
会長棚木均	川端あゆ様	表郷村土地改良区	荒井宏	
新年のご挨拶	福島県土地改良事業団体連合会	2	新年を迎えるにあたり思うこと	阿武隈川上流土地改良区
(水土里ネット福島)	小谷田厚子	月形中野土地改良区	渡部千恵子	
専務理事 高橋豊吉	手話の世界へ	東西白河土地改良〇Ｂ会について	(元鮫川村土地改良区)	
第二十六回全国土地改良大会	7	7	鷲野谷弘行	
支部だより	9	4	大久保多佳	
永年勤続	13	3	永年勤続の表彰を受けて	
95gの思い	13	4	水土里ネット福島	
永年勤続の表彰を受けて	13	7	須賀川市土地改良区	
十年を振り返って	14	9	高橋みどり	
会津若松市湊土地改良区	14	15	川島毅	
「土地改良区との出会い」	15		川島ヒサ子	

表紙写真

平成14年度農村景観写真コンクール

農業施設の部 最優秀作品

「猫啼堰の休日」

須田勝彦氏(郡山市)



本文は古紙配合率100%、
白色度70%の再生紙を使用しています。

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 棚木 均

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、ご健健にて新年をお迎えになられたことと存じ、お慶び申し上げます。

さて、昨年は低温、日照不足などにより本県の水稻をはじめ果樹、野菜等の農作物に、二三八億円という多額の被害が発生し、平成五年以来の大災害を受けました。只でさえ厳しい状況にある農家経営に追い打ちをかけるような大災害であり、被害を受けられた会員の方々に対しまして、衷心よりお見舞いを申し上げる次第であります。

また、土地改良区におきましても、この影響を受け賦課金の未納が増える等、運営に支障を来すことが懸念されるところでござります。

さて、平成十六年度より新たな水田農業を目指す「米政策改革」がはじまりますが、これは、今までは国の施策として行っていた米作りが国ではなく生産者自らが責任を持つて作付けをし、生産調整を行い、自らの責任において販売をしなければならないことになります。

このことをふまえ、消費者のニーズに応えられ、売れる米作りが必要となつて参ります。

消費者からは、安全で安心な米、安全な農産物を安定的に提供することが求められることになると思います。

そのような中で、無化学肥料（有機肥料）、無農薬栽培による米作りを行つておられる方の講演をお聞きしました。（本協議会、会津水土里ネット事務局長会共催勉強会）

この方は、もみ殻、米ぬか、油かす等を使った無化学肥料を使用しておられます。米ぬか等には除草効果もあり、さらに乗用の除草機を使用して、農薬は使わない除草をされておられるということでした。

無化学肥料、無農薬のため、収量は一〇アール当たり五一〇キロと少ないということでしたが、減収ということも、安心安全と言う高付加価値によつて、デメリットを越えるメリットがあるとのことでした。

のことから、土地改良区としては事業によって確保された豊かな水を提供し、整備された土地とともに有効に活用していくいただき、様々な事業に取り組み農家負担の軽減を図りながら、組合員の方々と話し合い、相談して、担い手農家、農業者の人材育成のために市町村等の関係者と協力して行くことが、これから明るい農業農村作りのために必要なことではないかと思うところであります。

今年は選挙の年であります。参議院議員選挙には比例区より土地改良事業団体顧問の佐藤昭郎氏が、県知事選挙には県知事であり、

県土地連会長の佐藤栄佐久氏が立候補を予定されておられます。

職員連絡協議会と致しましても、推薦し当選に向け運動を展開して行かなければならぬと思っておりますので、会員の皆様には、大変ご苦労をおかけ致すことになりますがよろしくお願ひ致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶



水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 高橋 豊吉

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健闘で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

水土里ネット福島の業務運営及び農業農村整備事業の推進につきましては、日ごろより特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、昨年は、長雨や冷夏により、水稻をはじめとする果樹、野菜などの農産物に二三三四億六千万円余の被害が発生しました。

被災されました方々に対しましては、衷心よりお見舞い申し上げる次第であります。

さて、昨年十二月二十四日には、平成十六年度農業農村整備事業の政府予算が閣議決定されましたが、対前年度比九五%の八、三四五億円となつており、公共事業の見直しに伴う厳しい内容となつております。

また、昨年十月十日、平成十五年度を初年度とする十九年度までの土地改良長期計画が閣議決定されました。

この計画によりますと、農業、農村に対する食料の安定供給や安全性の確保に加え、農業生産活動が有している国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の機能や、自然美豊かで美しい景観を有する農村のやすらぎの場としての機能、農業、農村体験の教育上の効果等が国民生活の安定に果たしている役割、農業の自然循環機能を活かした有機性資源の利活用による循環型社会の構築等について、国民・消費者から強い要請・期待が寄せられていることを受け、国民の「いのち」を守る「いのち」の視点や、循環型社会を構築する「循環」の視点、更には、都市と農村の「共生」を実現する「共生」の視点などの三視点に立って、環境との調和に配慮しつつ計画的かつ総合的に土地改良事業を進めることが必要であるとされております。

このような状況のもと、水土里ネット福島と致しましては、国、県の施策を十分踏まえつつ、農業農村整備事業を計画的に推進することが重要であると考えております。

また、農業農村の適切な水利施設の維持管理など、地域の環境保全に重要な役割を果たしている土地改良区について、地域の方々のご理解を得るため、土地改良関係者が一体となつて「21世紀土地改良区創造運動」を開催しており、土地連も「水土里ネット福島」の愛称のもと、一般の方々に親しまれるよう啓発活動を行っておりますので、会員皆様方のご理解を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

今後とも、水土里ネット福島に対しまして従来同様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、貴協議会の益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げまして新年の挨拶いたします。

第二十七回総会

○第二十七回総会

福島県土地改良団体職員連絡協議会第二十七回総会は、平成十五年七月十六日（水）午後一時三〇分より石川町母畠温泉八幡屋において開催された。

石神副会長（東根堀土地改良区）の開会宣言、棚木会長（会津北部土地改良区）の挨拶のあと、特別功労者及び永年勤続者表彰が行なわれ、表彰状と記念品が贈られた。

表彰されました方は別表のとおりです。受賞者の皆様おめでとうございました。

まして益々の御活躍を祈念いたします。

次に、祝辞を県中農林事務所農村整備部長近江動様、

福島県土地改良事業団体連合会専務理事高橋豊吉様よ

りいただきました。

議事に入り、議長に須賀川市土地改良区の橋本雄司氏を選出しました。

棚木会長 挨拶



県中農林事務所 近江部長

議案第七号「役員の補欠選任について」は、役員の退職等に伴う新役員候補者の事務局案提示、説明があり、原案のとおり承認されました。

柳内副会長（小川町土地改良区）の閉会宣言により、第二十七回総会は終了した。

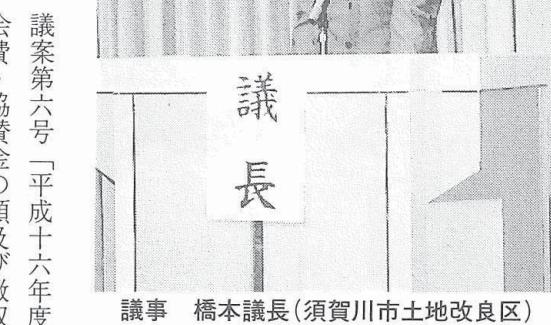
号「平成十四年度事業報告書」議長の挨拶後、議案第一



土地連 高橋専務理事

「平成十五年度補正予算（案）について」は事務局の説明後承認された。

議案第四号「平成十六年度事業計画（案）について」、議案第五号「平成十六年度収支予算（案）について」、



議事 橋本議長(須賀川市土地改良区)

について」、議案第

二号「平成十四年度収支決算承認について」が一括議題として出され、

事務局の説明、監査員の監査結果報告の後、原案どおり承認された。

次に議案第三号

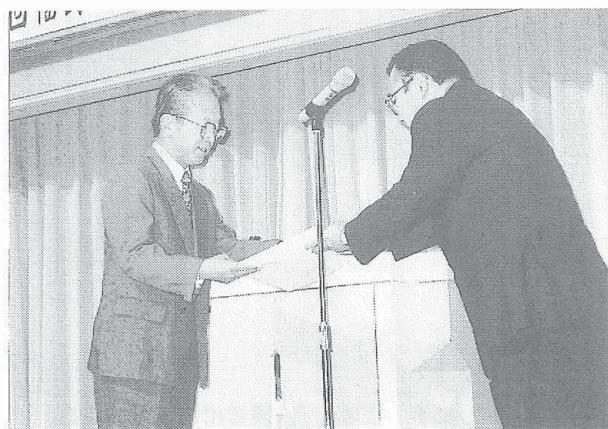
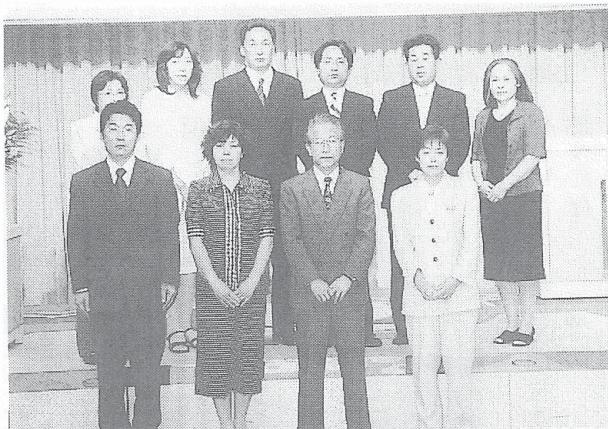
「平成十五年度補正予算（案）について」は事務局の説明後承認された。

議案第六号「平成十六年度会費・協賛金の額及び徴収方法について」は一括議題として提案があり、事務局の説明後いすれも原案どおり承認された。

議案第六号「平成十六年度会費・協賛金の額及び徴収方法について」は一括議題として提案があり、事務局の説明後いすれも原案どおり承認された。

特別功労者及び永年勤続表彰

二十年勤続		三十年勤続		表彰 特別功労者		所属団体名						
所属団体名	氏名	(順不同・敬称略)										
福島県土地改良事業団体連合会		請 戸 川 土 地 改 良 区		磐 城 小 川 江 筋 土 地 改 良 区		相 馬 市 土 地 改 良 区		母 畑 地 区 土 地 改 良 区				
会津若松市湊土地改良区	西 厚 雄	矢 吹 土 地 改 良 区	須 賀 川 市 土 地 改 良 区	安 達 疏 水 土 地 改 良 区	福島県土地改良事業団体連合会	大 久 保 多 佳	巴 惠 美 子	増 井 み ど り	吉 田 浩 子	作 間 和 子	瀬 谷 輝 勝	松 本 充 弘



十年勤続		所属団体名			
所属団体名	氏名				
福島県土地改良事業団体連合会	高 橋 育	福島県土地改良事業団体連合会	近 野 好 範	福島県土地改良事業団体連合会	尾 形 聰
会津北部土地改良区	湯 浅 拓	福島県土地改良事業団体連合会	桃 谷 孝 俊	福島県土地改良事業団体連合会	丹 伊 田 拓
社川沿岸土地改良区	緑 川 源 治				

職員業務研修会

○職員業務研修会

第二十七回総会後、業務研修会が行われた。

最初に、福島県農林水産部農村整備領域農村計画グループ主事山口英樹氏を講師に、「21世紀土地改良区創造運動」について、運動の概要や具体的な取り組み等についてお話をいただいた。

次に、参議院議員佐藤昭郎氏を講師に「農業農村をめぐる情勢について」と題したご講演をいただき、現在の農業農村整備の課題、二十一世紀の農業農村整備の取り組みなどをお話しいただいた。

翌日の現地研修は、農業水利施設千五沢ダムを母畑地区土地改良区瀬谷輝勝課長の案内で視察研修した。また、浅川町の吉田富三記念館の見学を行った。



講師 山口英樹氏



研修風景



講師 佐藤昭郎氏

佐藤あきおが取り組む政策

- 食糧自給率の向上に向け、水と土を守り農業農村の担い手を育てます。
- 安心、安全な「食」の確保と消費者と生産者が信頼しあえるフードシステムを確立します。
- 環境に優しい農業を推進し、有機資源の利活用を積極的に進めます。
- 農村の生活環境の整備を進め、共に生きる農村と都市を実現します。
- 上記の実現を図るため「水と土と人のネットワーク」を通じて、国民運動を展開します。

佐藤あきおの「さとうみず通信」

この会は、「水と土と人のネットワーク」を基本政策とする、
参議院議員佐藤あきおのメールマガジン
「さとうみず通信」の読者の会です。
この通信は、広く国民の皆様に
佐藤あきおの政治姿勢や政策をご理解頂くための
双向のネットです。

ホームページアドレス

<http://www.satomizu-net.jp/dokusya>



現地研修



現地研修

第26回

全国土地改良大会～愛知県大会～

第26回全国土地改良大会は、平成15年10月15日午後1時より、愛知県名古屋市の総合体育「レインボーホール」において、「水と土の愛を知り 共生につたえる農の夢」をテーマに、4,800名の土地改良関係者が参加し盛大に開催された。

本県からは、土地改良区役職員、県職員、本会役職員等40名が参加した。

大会開催の主旨、「いのち」、「循環」、「共生」という新たな視点に立った農業農村整備事業の積極的な展開と「食料・農業・農村基本法」の基本理念の実現のために同事業が果たす役割の重要性を広く国民にアピールする。」としている。

大会式典では、まず主催者挨拶で全国水土里ネットの野中広務会長は、「全国の水土里ネットが創造運動に邁進し、地域住民や国民にその役割や存在意義が浸透することを期待する」と述べ、さらに水土里ネットが地域農業の舵取り役として活動するよう期待を込めた。また、水土里ネット愛知の吉川博会長も挨拶の中で「農業を取り巻く情勢が大きく変貌している中で、われわれが心をひとつにして農業・農村を構築することが重要」と決意を新たにした。

このあと来賓祝辞などに続いて、21創造運動、土地改良事業功績者の表彰を行った。

前年に開催された宮崎大会で土地改良区の愛称を「水土里ネット」と決め、3年目に入った21世紀土地改良区創造運動にも一層力を入れてきた背景から、今回初めて「21創造運動大賞」を定め、10水土里ネットを表彰した。

土地改良事業功績者では、農林水産大臣表6人、農水省農振興局長表彰16人、全国土地改良事業団体連合会長表彰47人の合わせて69人が受賞。本県では、前泉崎村土地改良区理事長中野目辰善氏が全国土地改良事業団体連合会長賞を受賞された。

基調報告では、太田農村振興局長が、農業農村整備事業を巡る最近の情勢について「省庁再編」、「米政策改革」、「バイオマス・ニッポン総合戦略」、「オーライ・ニッポン会議」、「水とみどりの美の里プラン21」、「新たな土地改良長期計画」などの新しい動きや、これらの背景を踏まえた農業農村整備に係る施策、土地改良区の今後などを説明した。

引き続き、水土里ネット愛知の新入職員の片岡俊博氏と内山智会氏が「我々の使命は、地域住民や関係団体など多様な人々と手を携えつつ、稔りある土地と美しい田園空間を守り育むことにある。」と大会宣言を行った。

併催行事として愛知の農業・農村フォトコンテスト入賞作品や農業農村整備のパネルが展示された。このほか今年のふるさとの田んぼと水子ども絵画展なども行われ、大会を盛り上げた。

なお、第27回全国土地改良大会は、平成16年10月5日新潟県新潟市「朱鷺メッセ」において、「トキめく未来、水土里のふるさと」をテーマに開催される予定。



大 会 宣 言

今日、地球規模での食料・人口・環境問題が深刻化する中、我が国の農業・農村には、安全で安心な食料の安定的な供給により広く国民の「いのち」を守り、農業用水やバイオマスの「循環」、人と自然・都市と農村の「共生」を育む役割が求められている。

アジアモンスターに位置する我が国は、有史以来、自然条件を活かした農業を開拓し、その活動を基に地域社会が営まれ、先人たちは、生産基盤の营造に叡智を注いできた。

その恵澤である農地や水利施設を遺憾なく活かし、地域一丸となって、意欲ある総意に溢れる農業経営、きれいな水と土に支えられた食料生産、水とみどりあふれる美しい里づくりを実現することが、今まさに、必要となっている。

昨年の宮崎大会において、我々は、自らの愛称を「水土里ネット」と定め、21世紀土地改良区創造運動の更なる一步を踏み出した。

我々の使命は、地域住民や関係団体など多様な人々と手を携えつつ、「水」「土」「里」を一体とする農村の地域資源に新たな息吹を与え、21世紀の國の礎ともいるべき「稔りある大地」と「美しい田園空間」を守り育むことにある。

現下の課題である米政策改革による地域水田農業のビジョンづくりに積極的に参画するなど、活動の拡大・強化に、たゆまず精魂を傾けなくてはならない。

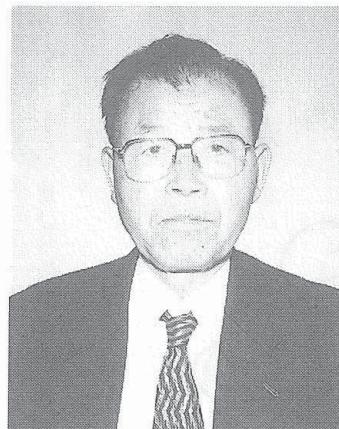
「水土里」が、地域農家はもとより、国民一人一人のかけがえない財産として了知され、次世代へと着実に継承されるべく、「水と土の愛を知り、共生（とも）につたえる農の夢」の実現に向け、総力を結集して邁進することを、ここ愛知において高らかに宣言する。

平成15年10月15日

第26回全国土地改良大会



全国大会風景



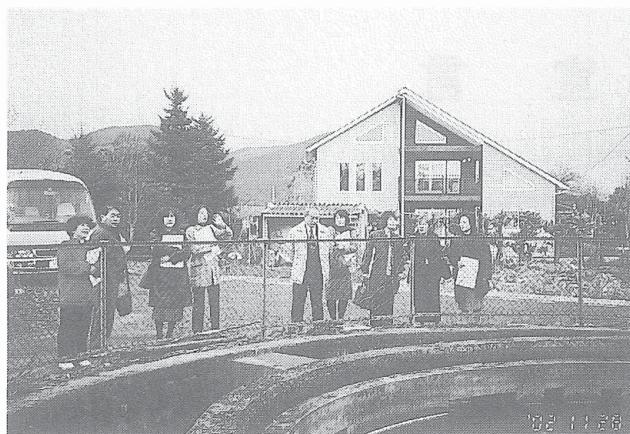
中野日辰善氏
前泉崎村土地改良区理事長



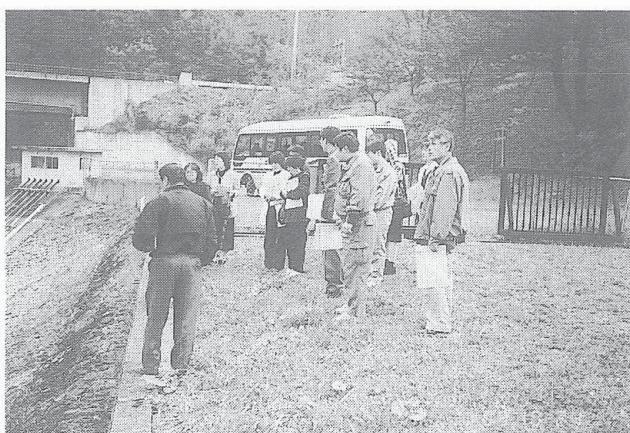
支部だより

県北支部

渡辺洋子



第10回 福島栗本堰円形分水槽



第11回 大玉三ツ森溜池

当支部の役割、一年間の業務の流れ、研修会等については、前回記載しましたので、今回は主催者を当管内土地改良区當番制にて互いの地域、改良区の概要、課題等を勉強し、職員間の親睦を深める為、平成五年に発足された「県北方部土地改良区職員研修会」について第一回(平成五年)

なお、第十回(平成十四年)、第十一回(平成十五年)開催は、職員連絡協議会より会場費五〇、〇〇〇円と会員一名に付三、〇〇〇円を参加者分協賛していただきました。ありがとうござります。

～第十一回(平成十五年)迄、一覧表にて紹介させていただきます。(表は、福島市土地改良区氏家悠佳子業務主任より御協力頂きました。次頁参照)

今回は、土地改良長期計画の決定に伴い、土地改良事業についての基本的な方針である「いいのち」を守る農業農村の基盤づくり、「循環」社会の構築、「共生」の視点に立つて、都市と農村の共生、ふるさとづくりについてをテーマとして研修することとしました。

研修内容としましては、
 ① 山形県飯豊町におけるふるさとづくりについて
 中山間事業中津川地区における集客誘致のノウハウについて
 ② 上山市土地改良区
 農業農村整備事業「鉱毒対策事業」農業用水について
 ③ 寒河江川土地改良区
 水環境整備事業「グランドワーク二の堰の取り組みについて」

作業が楽しめるという体験農業施設、寒河江川土地改良区の、土地改良施設である二の堰親水公園を中心に地域住民との連携を深めながら様々に活動を開拓している様子など、「なるほどよく考えているなあ」と感心したり、新しい発見がありました。

また、どの視察先でも担当の方々の熱意あふれる説明があり、研修させて頂く側も熱心に質問するなど、充実した研修でした。

それぞれに忙しいこともあります。研修の参加者が少なく残念です。

視察研修に参加することもなかなか難しい状況かと思いますが、研修を通じて情報を交換したり、水土里ネットとして連携を深めていく上でも、ぜひ多数の参加をお願いいたします。

県中支部 吾妻正敏

飯豊町の、やっかいものだった「雪」を利用した低温貯蔵施設「雪室」や、ハイヒール・スカート姿で畑に来て必要な道具が全部揃つており、農



県北方部土地改良区職員研修会一覧表

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
当 番 土 地 改 良 区	東根堰土地改良区	伊達西根堰土地改良区	梁川町土地改良区	福島市土地改良区	安達町土地改良区	大玉土地改良区	
開 催 月 日	平成5年7月8日(木)	平成6年9月22日(木)	平成7年5月19日(金)	平成8年11月1日(金)	平成9年6月13日(金)	平成10年6月26日(金)	
宿 泊 場 所	日帰り ホテルほばら	飯坂温泉 旅館「清山」	飯坂温泉 「湯乃屋」	土湯温泉 「山根屋」	岳温泉ヘルシーパル二本松 福島保健福祉センター	アツトホーム大玉 大玉村宿泊保養施設	
研 修 内 容	(懇談会) 1 土地改良区当面の課題 2 今後の会の進め方について ・安達町・安達疏水・大玉土地改良区・土地運営 宋戸さんの参加について	(懇談会) 1 行政手続法について 講師 二階堂係長 2 会計経理の事務手続きについて 3 今年の早魃状況報告に ついて 要望 懇談会でなく研修会にしてほしい。	(研修会) 1 H6年度各会計決算見込みについて 2 土地改良施設維持管理経費の状況について 3 役職員退職給与積立状況について 4 地区除外の状況及び決済金の決算について	(研修会) 1 現場 「四季の里」見学 2 「民家園」見学 3 「民家園」見学 4 「民家園」見学	(研修会) 1 県営荒井地区畑総事業 現場 「四季の里」見学 2 「民家園」見学 3 「民家園」見学 4 「民家園」見学	(研修会) 1 ふくしま県民の森オートキャンプ場「フォレストパークあだたら」	
出 席 会 員 数 (土地改良区)	19名	23名	23名	23名	22名	21名	
会 員 (土地改良区)	28	28	28	28	28	27	
	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回		
当 番 土 地 改 良 区	安達疏水土地改良区	東根堰土地改良区	伊達西根堰土地改良区	福島市土地改良区	大玉土地改良区		
開 催 月 日	平成11年10月8日(金)	平成12年10月26日(木)	平成13年11月8日(木)	平成14年11月28日(木)	平成15年10月24日(金)		
宿 泊 場 所	岳温泉国民保養センター 「阿多多羅」	霧山こどもの村 「りょうぜん絵彩館」	桑折町研修センター 「うぶかの郷」	摺上亭「大鳥」	アツトホーム大玉 大玉村宿泊保養施設		
研 修 内 容	(研修会) 1 しらさわ岳山ふれあい 2 県営白沢第1揚水機場	(研修会) 1 農業集落排水事業について 2 「汚水処理と有機農業について」 講師 内隆芳様 ・小田處理場 2 岩館試験農場 3 西根神社 4 半田沼 5 霧山	(研修会) 1 摺上川ダム工事状況 2 福島地方水道用水供給企業団工事状況 3 西根上堰頭首工取水状況 4 西根神社 5 半田沼 6 霧山	(研修会) 1 県営福島北部地区ほ場整備事業(粗い手育成型)について 2 塚本堰の分水槽について 3 塩釜神社 4 長井	(研修会) 1 講演 大玉村水利事業史について 講師 三村達道先生 現地研修 ・三ツ森溜池 ・長井坂円形分水散策 5 遠藤ヶ滝	(研修会) 1 大玉村水利事業史について 講師 三村達道先生 現地研修 ・三ツ森溜池 ・長井坂円形分水散策 6 遠藤ヶ滝	
出 席 会 員 数 (土地改良区)	19名	17名	19名	18名	18名		
会 員 数 (土地改良区)	23	23	21	20	18		

会津支部 永嶋千代子

南会津支部 藤澤久美子

支部研修に想う

水土里ネット会津・南会津支部共催による県外研修を十月二十二日、二十三日と一泊二日にて実施致しました。

今回の研修のねらいは、最近バイオマス利活用の話題が多く取りあげられている中で、有機農業の推進、畜産公害の根絶、行政経費の節減等を目的として進められており、岩手県胆沢郡金ヶ崎町高品質堆肥製造施設を見学いたしました。

畜産廃棄物、生ゴミ等（特にオカラ・タマネギ残粕）を受け入れ堆肥化し、リサイクルによる有機農法で「安全・安心」の食料生産を目指しているものでした。

次に宮城県登米郡中田町にあっては、耕地面積四、〇一〇haで、内、水田三、六二〇haを耕作する（有）オジマスカイサービスの経営実態について研修を行いました。

役員二名、常時雇用者五名、年間延べ二、〇〇〇人の臨時雇用で、米七億円、野菜九・九億円、肉用牛九

・九億円、乳用牛四・五億円で、年間六八・四億円の販売実績には大変驚きました。

農産物直売所の開設、稻・副産物の再利用による土づくり「環境にやさしい農業」の実践に取り組んでおられた。

今回の研修者四十二名の方々には、ネームプレートを付けて頂き、始めて参加された方でも、気楽に互いに名前を呼び合いながら、話される姿には「水土里」というネットワークを感じました。

また、二日間の研修に際し、添乗として同行案内をいただきました、バスガイドの遠藤絹子さんには職業とは言え感銘を受けました。

道程先々の地理に明るく、その地の歴史・人物・現代の話題も交えて知識豊かな懇切丁寧なお話は、参加者の誰もが感嘆し驚かされました。

本区は、楨葉町内に在る一定の農用地を地域として、地区面積は六七三ヘクタール、うち九六%の六四七ヘクタールが水田で、組合員は八八九人、一戸当たり平均水田面積は〇・七ヘクタール、南に広野町、北は富岡町に接して太平洋に面しており、阿武隈山脈が海岸線まで迫り、耕地は狭く、急傾斜をなした地域です。

かつては、大雨の都度、急峻な小河川や水路は、忽ちに決壊氾濫し、木杭を打ち、竹しがらを編み、カマス土俵を積んで農家自らが復旧し、

相双支部 阿部照子

今回は、管内の「水土里ネットならは」を御紹介いたします。

**豊かな農村を創造する
水土里ネットならは**

**楨葉町土地改良区
高木保之**

土地改良団体職員連絡協議会々員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今般何か寄稿を！とのことで、豊かな農村を創造する水土里ネットならは」を紹介いたします。

本区は、楨葉町内に在る一定の農用地を地域として、地区面積は六七三ヘクタール、うち九六%の六四七ヘクタールが水田で、組合員は八八九人、一戸当たり平均水田面積は〇・七ヘクタール、南に広野町、北は富岡町に接して太平洋に面しており、阿武隈山脈が海岸線まで迫り、耕地は狭く、急傾斜をなした地域です。

こうした中にあって、今回の研修のことについて、帰路のバスの中で楽しげな会話を耳にした時、これも研修の成果のように感じた思いでいた。

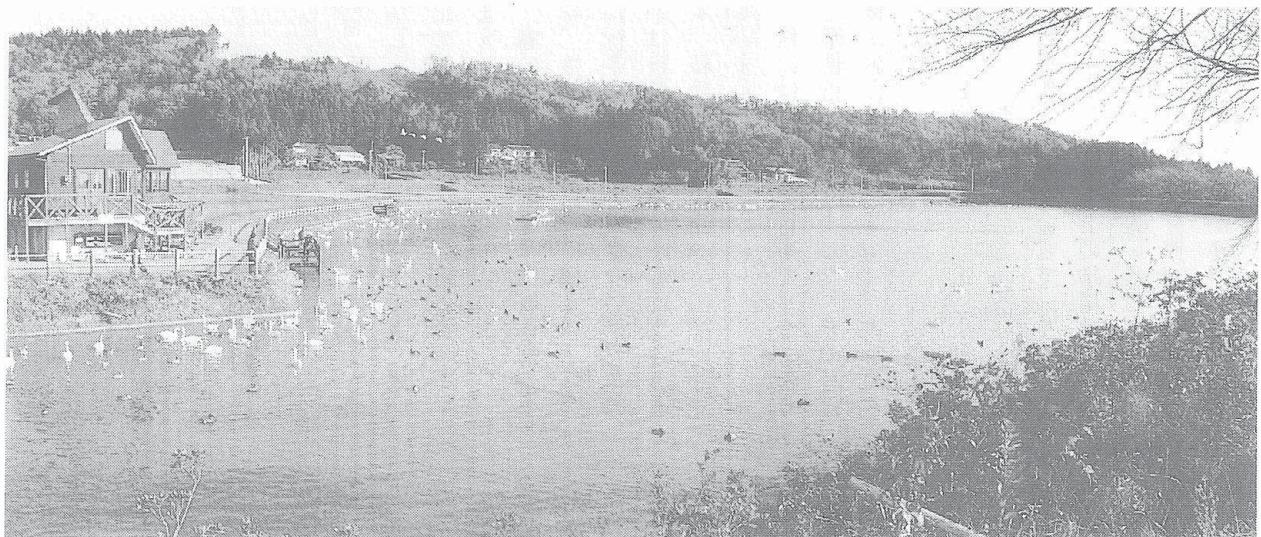
一方、ほ場からは稻バセや稻ボツチが消え、里に煙りの立たない農村の風景は、なぜか場違いを感じ、温もりが無く、寂しいものだと、時にはおセンチに浸ることもあります。

これからこの区の役割りは、建設して来た施設の維持管理が主体とな

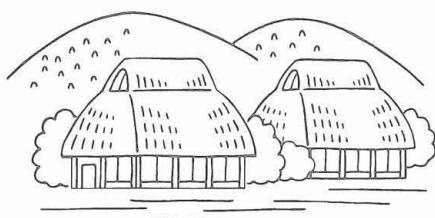
辛うじて残った稻を大事にハセに掛け、やせ馬で庭先に背負つて脱穀し、雨が近づけば座敷に取り込み、寝床を奪われ、腰は曲がり、手にはヒビ、大変な苦労の末、一年を賭けて収穫していた農村の風景が想い起こせますが、昭和四十三年から平成十年にかけて、県営二地区、団体営十一地区で三〇アール区画の近代的ほ場整備が実施され、平地におけるほ場整理が一〇〇パーセントに達し、今では、水田に大型機械が稼動し、ほ場をトラックが走り廻り、草取りに這う農夫の姿や、ハセに掛けられた稻の姿はほとんど無く、もちろん堤防の決壊、耕地の流失等は皆無となり、さらには農地の流動化と担い手への集積も進むこととなり、農外収入への依存が増大したとは言え、目標として来た農家経営の安定と所得の向上は確実に図られて、漸く待望の近代的（都市的）様式による生活が営まれるようになりました。

一方、ほ場からは稻バセや稻ボツチが消え、里に煙りの立たない農村の風景は、なぜか場違いを感じ、温もりが無く、寂しいものだと、時に

これからの本区の役割りは、建設して来た施設の維持管理が主体となります。折から「多面的機能を發揮し、都市と交流する、自然・環境と共生する農村の創造」が呼ばれるときもあります。これからは用水の確保、管理労力の削減、災害の防止にのみ囚われることなく、環境と馴染み、自然を育てる施設の維持管理と創造に地域の多くの人々と交流しながら、創意工夫し、「漸く今」ではあります。私たち農家経営の安定と所得の向上が、多くの皆さんの貴重な財を投じて達成できたことに報いる意味からも、子々孫々に至る全ての人々に「温もり」と「安らぎ」を与える「豊かな農村を創造する水土里ネットならは」、そしてその一員でありたいと、内に秘めているところです。



北国からの使者「白鳥」が舞い遊ぶ、灌漑用調整溜池「上繁岡第一溜池」



永年勤続

95gの思い

水土里ネット福島 増井みどり

職員連絡協議会より勤続三十年の感謝状をいただきましたが、一九七二年七月一日付けで本採用となつてから三十二年余が過ぎました。農家に生まれたのでもなく土地改良事業などという言葉も知らず、どんな仕事かも分からず状態で就職しましたが、土地連職員の中にも同様の人のがかなりいるのだと思ひます。

最近、小学生や都会の人々が農業・農村の体験をする例が紹介されていますが、わたしの農村体験は小学校入学の一年前から二年生の十月までありました。父が仕事の関係で西白河郡西郷村に今はもうない開拓農場に勤務していた期間です。

昭和三十年代の農村、田、畑、防風林、牧草地、なだらかな山、小川、そこはまるで『となりのトトロ』の世界でした。

食べていくためには畑で野菜を作らなければなりませんでした。農作業などしたことのない母は大変苦労

したと思います。身体も悪くしまして。でも私や兄にとつては今でも懐かしく、素晴らしい体験ができた思い出の地であり、生涯の宝となっています。

春の田植えの頃には農繁休暇があり、生徒全員農家に田植えの手伝いに行きます。何もできない低学年の子は自分より小さい子の面倒をみます。私はただ畦に立つて田植えを見ていきました。

秋には、学校の行事でイナゴ採りと落穂拾いがありました。その日は腰におぎりを括りつけ、古手ぬぐいで作った袋を持って学校に集まります。昼過ぎには学校へもどり収穫を量つてもらい、目方の多い生徒は商品を貰つたと記憶しています。きっと鉛筆とかノートの学用品だったと思います。私の軽い袋は九十五gと書かれた紙切れを貰つただけでした。イナゴは父兄がゆでてから業者に売り、落穂は精米されて卒業生が

カレーライスを食べるのだと聞かされました。当時、学校では給食は行われておらず弁当でしたが、冬の間何回か味噌汁がでました。それも給食費を納めるのではなく各自が家にある物を持っていくのです。ある人は味噌を、ある人は大根を、ジャガイモを、人参を、薪をというぐあいでした。私の家は農家ではなかつたので何を持っていったのでしょうか。

そんな訳で私の農村農業に対する接点は幼い時期にただ傍観していましただけであり、農作業のつらさや農家の実態など全く分かつてないと言えるでしょう。この仕事に就いてから三十年間に学んだことの方が多く重要だと思いますが、思い出とは

うつて変わつて美しいものばかりではありません。時々どうしてこんな仕事を続けているのだろうと、疲れを感じることの多いこの頃ですが、

私の原点には農業・農村・美しい自然という言葉がいつも心の中で一体であり、今でも心の中の西郷村の風景が私を励ましてくれます。

私の仕事が誰かの、何かの、農業のために少しでも役立つていればいいな。九十五gよりは重く感じられるような仕事をしたいなと思つています。



永年勤続の表彰を受けて

須賀川市土地改良区 大久保 多佳

私も、とうとう二十年が過ぎたのかな?長かった様な、短かつたような実感のない感じです。

私が採用されたのは合併される前の須賀川市浜田地区土地改良区でした。土地改良区の仕事など全く伴らない状態での就職でした。ましてや

二十年も続けられるとは思つていませんでした。浜田地区で約五年間程勤務した後、浜田地区と稻田地区土地改良区の合併の話が出て、昭和六十二年四月に新設合併され、新しい土地改良区は新設されました。職員は同年七月末で全員退職し、八月

より以前の職員で私だけが再雇用されることになりました。再雇用されなかつた方のことを思うと複雑な気持ちでした。

当時の斎藤明理事長さんをはじめ、役員の方々のご理解より、職員の待遇が須賀川市職員と同じ水準に改善されました。また、仕事上のパートナーにも恵まれ、楽しく充実した日々を送っています。周りの方々の暖かい励ましのお陰で二十年間も土地改良区の仕事ができたのだと感謝しております。

ただ、同じく土地改良区の仕事をしている方々の待遇や給与が、まだ低い状態にあります。私たち土地改良区の職員は一名ないし二名と

いう非常に少人数の団体が多く、また、女性の方が多く従事しております。なかなか自ら、土地改良区の役員の方へ待遇改善を訴えることは出来にくい状態におかれています。

この土地改良事業団体職員連絡協議会の会員が一致して、職員の待遇改善に役立つような、働きかけができないものかと考えることがあります。土地改良区のために、日々がんばっている私たちの仲間が報われるため、また土地改良区職員の資質の向上のために、今後「土地改良団体職員連絡協議会」の存在がますます重要になりますよう祈っています。

十年を振り返つて

水土里ネット福島 高橋 毅

高校を卒業し、私の初めての配属先は確定測量課でした。県内全市町村が対象となる測量業務の性格上、ほぼ毎週のように泊りでの出張となり、家族よりも職場の方と一緒にいる時間の方が多くなり、出張先では毎晩、仕事への取組み方から酒の注ぎ方まで、社会人としてのこれから

感謝に絶えません。

自分の担当を持ち、相手先より名前を呼ばれる様になり、自分の居場所を確保出来たと思った頃、現在の来にい状態におかれています。

のか理解できなかった図面、言葉などが生きた形となつて飛び込んできます。「ああ、これはこうだつたのか」「これを意味していたのか」など、言われるままやつてきた作業がようやく理解できる様になりました。一緒に同行した先輩も私の問い合わせに答えてくれます。現場の責任者の方が施工上の問題点を私が作成した図面を使って説明している時など、もつと丁寧に書けばよかつたなど反省と赤面の思いでした。

今では漸く設計が理解出来、先輩や相手先に意見出来る様に成りましたが、覚えなくては成らない事、覚えたが、覚えなくては成らない事、覚ったと思っていても、それは所詮先輩方が切り開いた道で手を引かれながら歩いていたに過ぎないと気づかれて、自分が如何に人に助けられ支えられてきた事かと、今実感しています。仕事の意義、何かを作り上げていく楽しみ、苦心して設計した現場が無事竣工した時の安堵感、達成感、喜びに浸るため日々努力して行

う」「かわいがつて」教えて頂きました。仕事の内容は高校で学んだ事の延長であり、それ程苦労なく取り組めた。自分が担当し、設計らしきものをした現場を見る機会があり、これまで机上で数字だけをみてきたものが実際に形となつて行く過程を目の当たりにし、これまで何を意味する

やつて行くため必要な事を、先輩曰く「かわいがつて」教えて頂きました。仕事の内容は高校で学んだ事の延長であり、それ程苦労なく取り組めた。自分が担当し、設計らしきものも一緒に仕事が出来た事が私の人生にとって大きな価値を与えてくれました。

「土地改良区との出会い」

会津若松市湊土地改良区 川島ヒサ子

昭和五十八年四月、湊土地改良区 設立三十周年という記念すべき年に勤務し、当然の事ながら創立五〇周年の節目の年に勤続二十年目を迎え、あらためて縁たるものを感じます。

振り返つてみると、この二十年があつという間でした。

初めは経験も知識も全然なく、組合員の方には、いろいろ迷惑や不安感を与えたかと思います。これまでの二十年無事勤めることができたのも役職員の方々、そして組合員の皆さんのお陰だと心より感謝いたします。

時には、自分自身の未熟さから仕事に対して自身を失い、挫折感を感じわつたりしましたが今振り返ると、いくつかの失敗や反省等が私にとって糧であり、何にもかえがたい大きな財産でもあつた気がします。

そして、この二十年間には、私にとって様々な出会いという財産もありました。

思えば、人生は出会いの連続であ

ります。

両親にはじまり、家族、友人、そして人生のパートナー、さらに子供たちとの感動的な出会い……そこには幾多の岐路もあり迷いもあります。

それが湊土地改良区に勤務することとでさらに出会いの輪が助長されました。

もちろん、土地改良区という職場との出会いから、皆さんとの出会いのみならず、澄みきった空気や大地を育む水や土という美しい自然との再会をもたらしてくれたのです。

二十数年前、家庭の事情でコンクリートに囲まれた東京から戻ってきた私にとっては、とても新鮮なものでした。これが真の心との出会いかと思えるようなん……

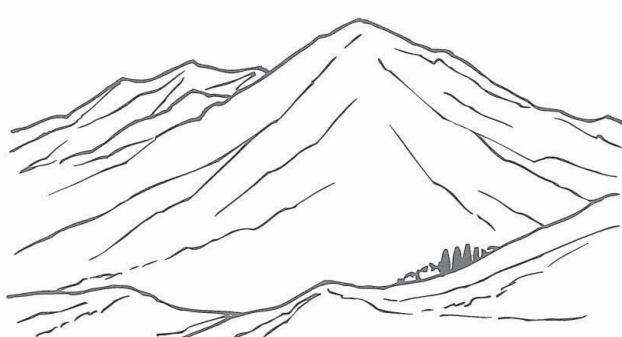
私自身、まだまだこれから先も幾つかの出会いと経験をすることと思いますが、それらを大切にし、そして仕事に反映しつつ今後大きく変わっている農業、ならびに土地改良事業に微力ながらお手伝いをし

ていただきたいと思います。

仕事の難しさは当然ですが、とくに人間関係の難しさ、大きさ等を経験してきた様に思います。

もう少し頑張ってみよう……

自分自身に言い聞かせ、毎日精一杯の日々を過ごしてきたこの二十年間同様、まだ通過点という意識でこれからも頑張るつもりです。





川端あゆ様

表郷村土地改良区 荒井 宏

あのね、昔はね、夏の夜の田んぼにはホタルがいっぱいいたんだ。

ホタルには源氏ボタルと平家ボタルとがある。夜空の星の下に、つまり、夏の夜の田んぼやあぜ道にはもうひとつ星空があるみたいに、無数のホタルが小さな螢光灯を点滅させていたんだ。

源氏ボタルは平家ボタルより体が一回り大きくて、放つ光も強いんだよ。この螢は清水が湧き出るようないつもきれいな水路がないと産卵から羽化までの大仕事を繰り返せないんだ。だけど、平家ボタルなら田んぼのあぜ道や少しきれいな水辺のコケとかに卵を産んで、それから一週間もたつと小さなイモムシみたいな赤ちゃんになって水の中にもぐるんだ。水中にはいろんな生き物がいるよ。中でもホタルの幼虫が大好きな食べ物は小さな貝の仲間なんだけれど、この貝の仲間だって水の中でほかの生き物を食べて自分たちの

赤ちゃんを産んでいるんだ。

だから、一年中きれいな水が流れている小川があるといいね。それから、秋の収穫期になつても水が切れないので、いつでも湿つていて、水が湧き出している田んぼがあると好都合なんだけれど、お百姓さんにとっては、とてもやつかいなことなんだ。

人間のからだには常在菌というのが住みついていてね。これはとても大切な友達なんだよ。あとから人間の体内に侵入しようとする悪い細菌をやつつけてくれる強い味方なんだ。だから、常在菌がいなくなるとアレルギー現象をおこしたり、いろいろな病気にかかりたりするんだ。このことを田んぼや畑の作物に置き換えて考えてみるとどうなると思う。き

よは田んぼの作物やその周りに棲む生き物たちの幾つかについて考えてみようか。田んぼの作物といえばその代表選手は稻だね。それでは、稻が持っているすばらしい能力につ

いての話をしよう。その前にウンカといつて蟬をずっとずつと小さくした虫と稻について考えてみようか。

この虫には夏ウンカと秋ウンカがあつて、稻の茎に群がつて汁を吸う害虫だからと村のお百姓さんに恐れられていたんだ。そして、梅雨どきになつても雨が降らない日照り続きの年があつて、この嫌われ者のウン

カがやつて来なかつたことがあってね。お百姓さんたちは雨乞いをする一方で夏ウンカの飛んで来ないのを喜んだんだ。

ところが、次の年にはウンカが大発生して田んぼはひどい被害をうけたんだよ。なぜだかわかるかい。それはね、前年にウンカがやつて来なかつたことと関係があるのさ。

ウンカを食べててくれる虫とかウンカの体の中に寄生する虫のことを益虫と呼んでいるんだけど、これはお百姓さんたちの味方なんだよ。

だけど、この年にはウンカが飛んでこなかつたから、それを餌にしている益虫の多くが生き延びられなんだ。水中にはいろんな生き物がいるよ。中でもホタルの幼虫が大好きな食べ物は小さな貝の仲間なんだけれど、この貝の仲間だって水の中でほかの生き物を食べて自分たちの

に寄生する益虫までもが減つてしまつたのさ。それで、翌年はウンカだけが大威張りで稻の汁を吸いまくつたというわけだよ。そして、お百姓さんの味方をしてくれる益虫たちが増え、もとのよう元気な田んぼに戻るまでには何年もかかったのさ。こここのところをよく覚えておいてほしいんだ。

おお、そうだったね。常在菌の話を忘れていたな。実はね、稻にもそういう素晴らしい能力があるんだよ。稻の品種の中にはすごい抵抗力を持つた強いやつがいることがわかつたんだ。たとえば、ウンカが稻の葉っぱや茎に卵を産み付けるとそのまわりが茶色になつて枯れたようになるけれど、本当は稻が自分の細胞組織を犠牲にしながらウンカの卵をやつつけていたんだよ。茶色く見えるのはそのときの戦いの痕なんだ。

害虫をやつつけるための薬を撒くと益虫まで減らすことになるし、稻にはなんの害も与えない虫まで死んでしまうから、それらを餌にしている多くの生き物まで減つてしまふさ。

トンボやクモもカエルやアメンボもウンカを食べててくれる生き物なんだけれど、そのほかにウンカの卵を食べててくれる虫とかウンカの体の中は、お百姓さんが親から子へ、子か

ら孫へと何代にもわたって受け継がれてきたんだ。そして、大自然の恵みに感謝しながらその分け前の一部をまた大自然の中へ還元してきたのさ。だから、その頃のお百姓さんは生産のことだけ考えていても自然が壊されることはなかつた。自然環境の中で補完結合の方法がとられるなどしてきただらね。でもね、近代化技術が導入されるようになつて随分と変つてしまつてね。それに、お百姓さんではない人のほうが遙かに多いんだけど、この人たちの自然に対する接し方にも問題があるんだ。

ところで、田んぼの水はどこから流れてくるのかな。山に降つた雨は、木の葉が積もつてできた腐葉土から養分を溶かしながら小さな流れとなる。やがて、川となつて石などからミネラルやカルシウムとともに溶かして集めてくれるのさ。こうして

田んぼを潤して、いろんな生き物の命を守つたり、健康な稻を育てているのさ。考えを海に向けると海の生き物だつて山の恵みを受けているのがわかるだろう。

キミはワタシからみれば孫だ。ワタシの娘のそのまた娘だからね。キミ達はまだ子供だけど社会の一員であることには変わりはないんだ。だから、キミ達も大人と一緒になつて山も川も、そう、土も水も、木や草も含めたいろんな生き物をも守つていかなければいけないんだよ。わかるかい。

こうしてみんなが自然環境を壊さないように心がけてね、大自然と仲良しの友達付き合いを続けていたらきっとまた、田んぼの上にホタルが描くもう一つの素敵な星空に出会えるよ。

養分をいっぱい蓄えたきれいな水が田んぼを潤して、いろんな生き物の命を守つたり、健康な稻を育てているのさ。考えを海に向けると海の生き物だつて山の恵みを受けているのがわかるだろう。

わざか四日間の中国旅行でした。けれども楽しく、充実した時間を過していました。

以前からのあこがれの地、蘇州。頭の中には墨画でみた、川と橋のある風景がこの目で確かめられるという期待感がありました。それとあの有名な「寒山寺」も楽しみな名所でした。

しかしその風景は見当りませんでした。中国人民の旅行者で、どこの観光地も人達でいっぱいです。そこへ日本人や諸外国の旅行者であふれています。以前の浅草、といったところの寺院内でした。

「現在、東京は世界で一番旨い中国料理を食べることができる場所だという話である。才能のある中国人の料理人が東京へ集まつてきている」と、吉行淳之介が書いている。が東京で中国料理を食べたことがない私には、とつてもおいしい中国料理を食べられた数日間でした。昼の点心も食材も良くおいしかつたです。

Mさんはお子さんに「中国へ行つたら、ちゃんと国際交流をしてくるように」と言られて参加したとおっしゃつてました。どこで、どんな風に交流すれば良いのか、と私は考えておりました。

新年を迎えるにあたり思うこと

阿武隈川上流土地改良区 小谷田 厚子

新年の抱負をお聞かせ頂きたく、の寄稿御依頼がありましたが余りに速い月日の流れに、「新年」を感じる思いも無く、過去の思い出話を書か

せていただきます。白河日中友好協会の催しで中国へ旅行した際の事です。

中国の地に降り立つたとたん、工

Mさんはお子さんに「中国へ行つたら、ちゃんと国際交流をしてくるように」と言られて参加したとおっしゃつてました。どこで、どんな風に交流すれば良いのか、と私は考えておりました。

のAさんもガイドブックを開いて見せたりしてこちらの友好を示していくうち、ようやく窓が開きました。そこで又大きな声を出し「ニイハオ、ニイハオ」と伝えましたら、男女の子供達が合唱するような「你好、你好（ニイハオ）」の声が返されてきました。私は気を良くして「私達はみんな日本人です。日本から来たのです」と幼拙な中国語で話してみました。

み上げるつるべの井戸があつて、親から常々井戸の周りで遊ばないよう言っていたのも聞かず、その周りで遊んでいた時のことです。突然兄の姿が消えてしましました。「そうです。」兄は、誤つて井戸に落ちてしまつたのです。それに気がついた私

け、昨年から少しずつ覚えようと本を見ながら始まりました「手話」について書いてみようと思います。

私には三つ違いの兄と妹がおりますが、妹が未だ生まれていなかつた

新年、明けましておめでとうござります。

手話の世界へ

「あなた達は日本国が好きですか？」
た。それが通じた様子なので続けて
とも聞いてみましたら「好きだ」と
答えてくれました。立っていた男の
子も何か話していた様子でしたが、
ことらへ声は届きませんでした。で
も私には、ささやかな、ほんのチヨ

ツピリの国際交流に、心温まる満足感を持ちました。今でもあのバス中の子供達のキラキラした瞳と、ニコニコの笑顔を忘ることはありません。「継続は力なり」で新年を迎えて中国語の勉強は続けて行きたいです。

達は、大人の人を呼んで引き上げてもらつたのですが、その時には兄は大変な状態になつており、それが元で耳が聞こえなくなつてしまつたのです。一瞬の出来事でしたが、それからの兄の人生は大きく変わつてしましました。小学校に入る年になつた時から兄は、家族と一緒に生活を離れ、ひとり泣きながら目の見えない、耳の聞こえない人達と一緒に生活をする寄宿舎に入つて学校生活を送ることとなり、小・中学校までそこで過ごすことになりました。五体満足の体で生まれてきた兄でしたが、突然の事故によつて親と離れて暮らすことになつてしまつたのです。その後、兄は歯科技工士の資格を取り、そして結婚し子供達にも恵まれ、子

供達も小さい頃から手話を覚え、手話は家族にとつてかけがえのない親子とのかけ橋となつております。重い兄夫婦は、手話サークルにも出かけ、多くの友達とも出会い、その中には健聴者の方もおられ、手話で会話をしてくれることで、「サークルに行くのが楽しいです。」そういう話を兄から聞くと「手話が出来ればいいなあ。」と思う私ですが、思つただけで前進しませんでした。ですから、兄夫婦と会話するには兄の子供達に手話で伝えてもらうか、または紙と鉛筆が必要になる訳です。実際、兄も仕事で歯科医師と話をするのですが、言葉の話せない兄にとつて紙と鉛筆は必需品で、それがなければ会話はできなく仕事にもならないと言います。そして、「もつと多くの人達が手話を覚え、難聴者と会話ができるようになればいいのになあ。」と紙に書いて私に見てくれた時、兄の切実なる気持ちを聞いたような気がして「はっ」とし、今まで言葉について考えたこともなく、当たり前にこのように思つていた私は、話をることができない兄の気持ちがわかつていませんでした。「健聴者だっていつ難聴者になるかわからぬい。」そう思つた私は、手話を覚え兄

夫婦との会話のみならず多くの難聴者とも会話ができるようになりたいと心から思うようになりました。

現在、福祉活動は盛んに行われておりますが、手話ができる方はどれ位いるでしょう。人には話す権利があり、人との会話は生活する上で重要な一部であると思うのは私だけでしょうか。しかし、難聴の方達は手話で多くの人達と会話できることを望んでいると思うのです。これを機会に手話の世界へ一歩踏み出してみてはいかがでしょう。私も覚えてようと思つたひとりです。



東西白河土地改良OB会について

OB会事務局 鷺野谷 弘行
(元鮫川村土地改良区)

職員連絡協議会の皆様方、如何お過ごでしようか。当地方の今年は冷夏や、梅雨明け宣言の取り消しなどで、水稻を始め多くの農作物に多大なる被害がありました。それでも大きな台風の被害のなかつた事が幸いでした。

さて、今回は非会員であります私達のOB会についてお知らせいたします。

土地改良区を退職して何年ぶりかに出会った方などと思い出話しながら時を忘れることがあります。そんな時にSさんは元気だろうか、Kさんは何をしているだろうか、などなど、在職時には職連携や事務局長連絡協議会などで親交のあった方々でも、退職して家にいることが多くなりますと区内や組内のいろいろな役を待っていましたとばかり引受ることになりますから、考えていても連絡をとり出会うことはなかなか出来ないものです。

そこで、次回にはお茶（お酒）でも飲みながらゆっくり昔話でもしたいね、と云うことになり、ついでにSさんやKさんにもひと声かけようと云うことになりました、平成14年7月11日に「土地改良関係OB会」をルネサンス棚倉にて開催いたしました。

初めてのことでのことでありますので、午後からの会合でしたが夕方までの数時間はアッと云う間に過ぎてしまいました。

懇親会の中で、平成15年は「東西白河土地改良OB会」として県南農林事務所管内全域の退職者にもご賛同を願うことにいたしました。

平成15年7月27、28日、東村の「きつねうち温泉」にて開催することとし、35名の方々に「万障繰り合わせご参加を」とお知らせしましたが、体調がおもわしくないとしての不参加者がなんと10名もありました。健康のありがたさを感じた次第です。次に仕事の都合でと云う方が4名、趣味の山登りや小旅行と云う方4名、音信不通の方もおりましたが、元県職員で白河農地事務所時代に10年もの長きにわたり当地方の土地改良事業にご指導戴きました斎藤勲様も「風の便りを耳にしたので」とはるばる郡山市より元気な姿でご参加くださいました。「地元の味をみて」と、持参してくれた飲物や漬物など沢山ありましたので話題が多くなり過ぎて、確か午前2時頃まで若者は?頑張っておりました。小生もその仲間の一人に間違ひありません。紅一点の鈴木さんを含めて9名の集いではありましたが帰り掛けに地元の吉田役員さんに寄り、行者ニンニクの種子や花の苗等戴き再開（平成16年は塙町で開催）を誓い東西南北にそれぞれ愛車で我家に向かいました。行者ニンニクの葉は健康にすこぶる良いですが、芽が出てから食べられるようになるまで10年近くかかるそうです。また、発芽率は30%位だと、種子を戴いた皆様方はあと10年は病気にはなれないと、益々元気になられた様子。

私も10年後を楽しみに早速種子を蒔きましたが心配なので今まで買って食べていたニンニクを我家の畠で栽培し10年間は健康でないと堆肥や油粕、また酸性を嫌う作物なので石灰など施して除草を兼ねて、もう2回ほどロータリーをかけました。

このニンニクで美味しく食事をとり、あと10年はあちこちの山に登り、その後は行者ニンニクでまた頑張り、このOB会に足をはこびたいと考えております。

在職者の皆様方、退職されましたなら是非このOB会に参加され浦島太郎になるまで頑張りましょう。県内でまだ未組織の地域がありましたなら是非発足されては如何でしょうか。職員連絡協議会のOB会を、と夢は大きくなりますが考えただけでも夢は楽しいものですね。当地方では「百姓の来年」という言葉がありますが来年こそすべての農作物が豊作でありますようにお祈りして筆を置かせて頂きます。

平成15年9月25日記

“ 土地改良事業に関する業務は 土地連がお手伝い ”

土地改良事業を行う会員の協同組織である県土地連は、土地改良事業の適切、かつ、効率的な運営の確保及びその共同の利益を増進することを目的とし、誠心誠意をもって、次に掲げる事業をお手伝いしております。

1. 技術的援助

- (1) 測量調査設計 (2) 実施・変更・出来型設計及び施工管理 (3) 確定測量
- (4) 換地計画及び登記申請書作成等の受託

2. 相談及び指導

- (1) 土地改良事業に関する相談及び農業基盤整備資金に関する指導
- (2) 土地改良管理指導センター
 - ・土地改良施設の管理に関する技術的な診断、指導
 - ・土地改良施設維持管理適正化事業に関する助言、指導
- (3) 換地センター
 - ・土地改良事業に関する換地事務の推進
- (4) 農村総合整備センター
 - ・農村総合整備事業の啓蒙普及及び技術の向上、指導

3. 電算処理

- (1) 土地改良事業工事費積算業務 (2) 換地業務設計及び経費積算 (3) 確定測量業務
- (4) 水文 (5) 水収支 (6) 土地改良区の賦課業務 (7) 各種土量計算



みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

会長 佐藤 栄佐久

〒 960-8502 福島市南中央三丁目36番地
TEL 福島 (024) 535-0371 (代表)
FAX 福島 (024) 535-1200
ホームページアドレス <http://www.f-tochiren.or.jp>